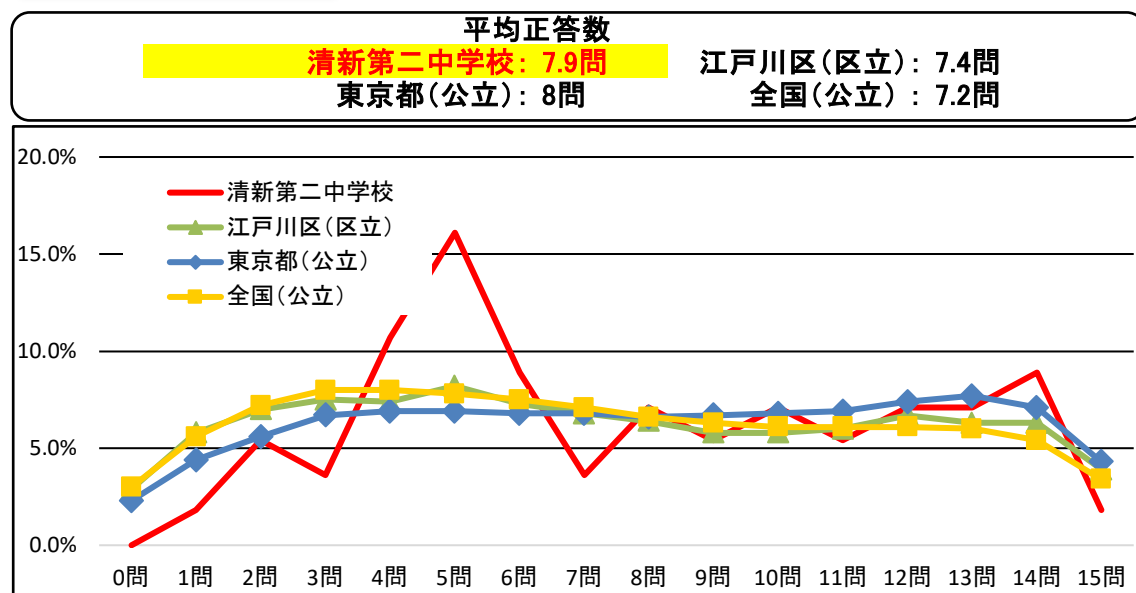


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【数学】 清新第二中学校

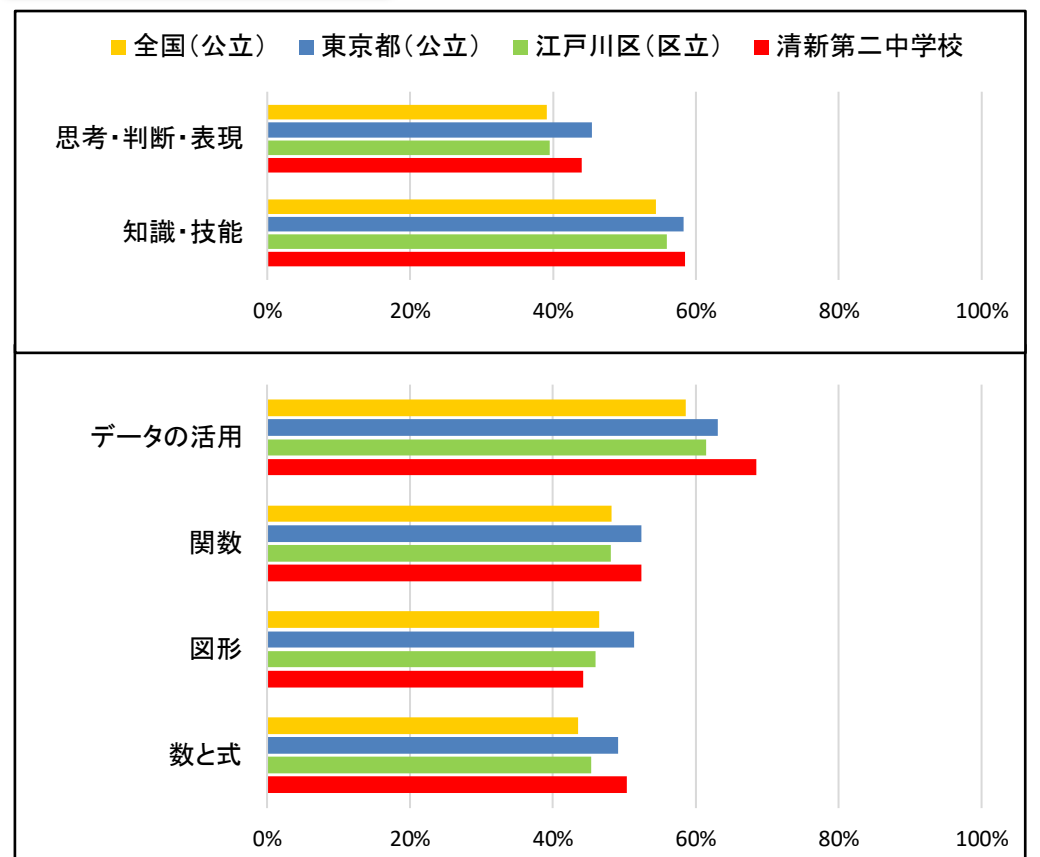
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

清新第二中学校	53%
江戸川区(区立)	49%
東京都(公立)	53%
全国(公立)	48.3%
都との差(ポイント)	0.0

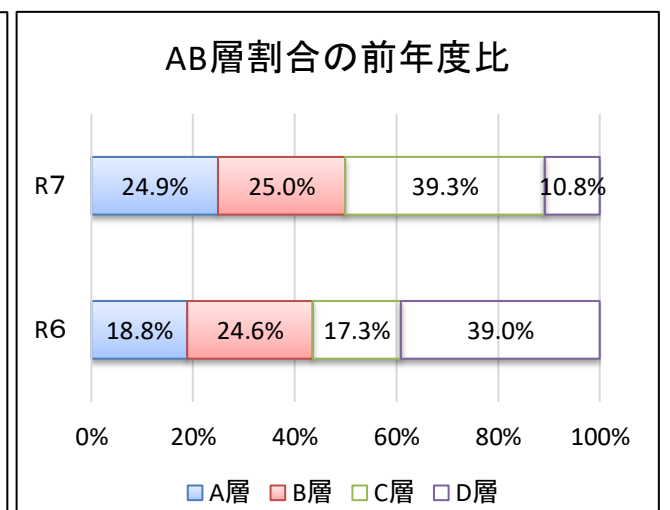
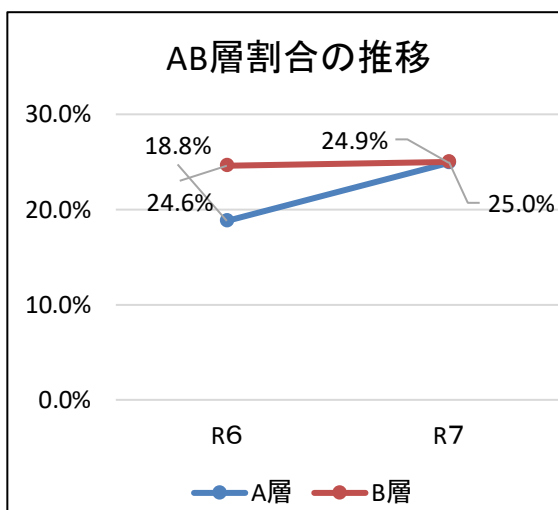
「領域別」の結果



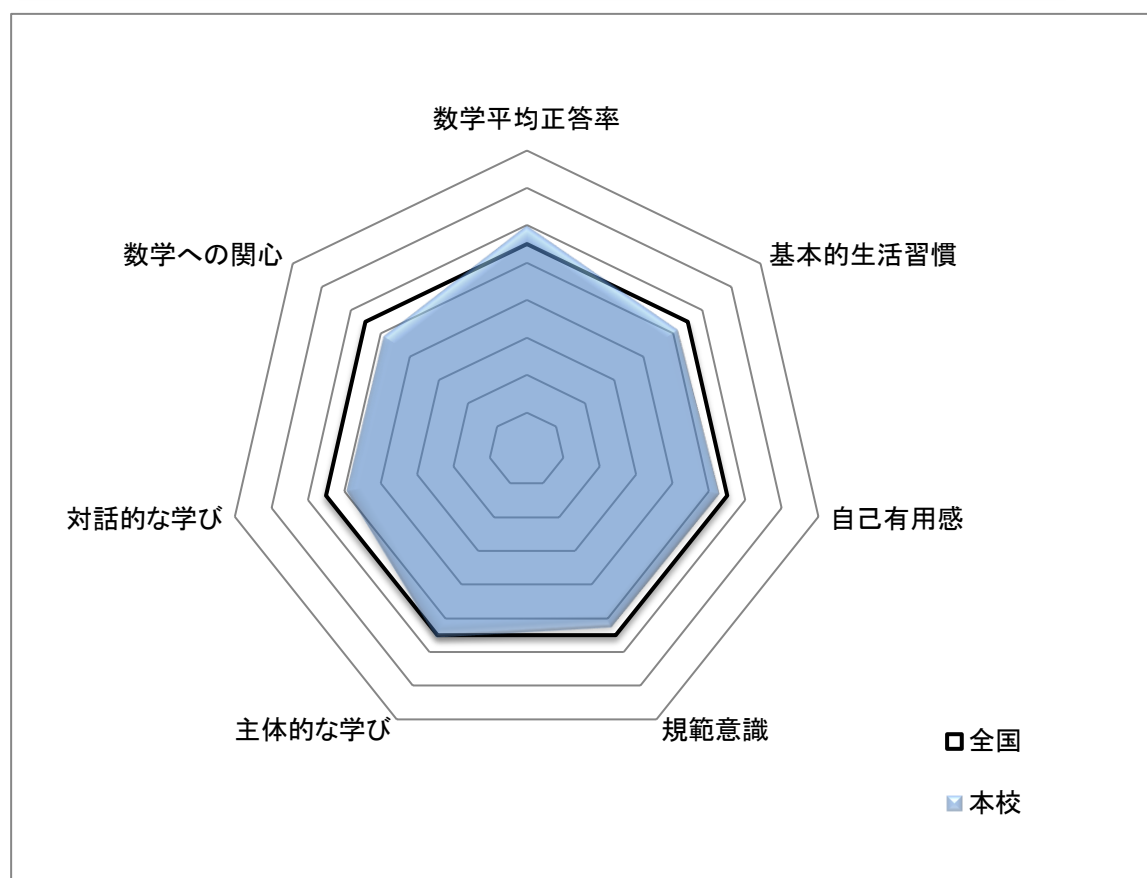
四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

数 学	上位 ← → 下位			
	A層 12～15問	B層 8～11問	C層 4～7問	D層 0～3問
清新第二中学校	24.9%	25.0%	39.3%	10.8%
江戸川区(区立)	23.2%	24.0%	29.6%	23.2%
東京都(公立)	26.5%	27.0%	27.5%	19.0%
全国(公立)	20.9%	25.1%	30.2%	23.8%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

平均より多少内側のチャートを示している。各項目を見ても、自信をもって選択肢1を選んでいる生徒は少なく、選択肢2が多くなっている。普段の生活の中でも、自分に絶対の自信をもつことができない生徒も少なくなく、自己肯定感や積極性などを育成することがこれからの課題である。また、授業改善等で、以前に比べれば主体的に学習する生徒の姿が見られるようになったが、まだ、受け身である場面も多くみられるため、更なる主体的な学びができる授業を推進していく。

《家庭・地域への働きかけ》

生徒が主体的に学ぶことができるように、興味・関心の高いこと、自分で考え、必要だと感じたことを学習させてください。また、その事柄に対して、保護者の方も興味をもってもらい、家庭での話題にしていただけると、さらに良い効果を得ることができると思います。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

グラフからもわかるようにB層の割合は変わらないが、A層の割合がかなり伸びている。昨年度より、D層からC層、C層からB層、B層からA層に移行する生徒が多いことがわかる。D層の極端な差の現象からも見て取れる。学年によって差はあるものの、ここまで顕著な結果となったことは、授業改善や生徒の意識改革からの学力向上が良い方向に進んでいると言っている。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

校内研修や専門性向上研修をとおして、これからも授業改善を行っていく。また、誰にでもわかりやすく、誰もが主体的に学ぶ、協働で学ぶ、そして深い学びとなるように、お互いの授業を参観し、改善策を協議することも行っていく。さらに、新学習指導要領の情報から、ある程度の道筋をたて、授業改善に取り入れられる内容は、随時取り入れていく。

・基礎学力の保障

主体的な授業と並行して、知識を学ぶときはしっかりと学ぶことを意識した授業、メリハリのある授業を心がける。獲得した知識を活用した探究的な学習がなされるように工夫した授業を行う。また、また、前時の振り返りや週末テスト、授業内での小テスト等をおして基礎学力の定着を図る。定着が見られない生徒には、放課後補習教室等を利用させ、個別に対応する。

・学習習慣の確立

自ら興味のある事柄や自分に必要だと思う学習を、自ら考え取り組む家庭学習方式としている。毎日短時間でも行うことだけを決まり事とし、後は生徒自身で進めるように伝えている。何をしたいかわからない生徒のために、プリントなどの補助教材を準備し、自由に教材を取っていただけるように工夫している。

・AB層の育成

自主的な学習の他に、応用的な問題や入試問題、難問などに取り組ませることを行い、主体性だけでなくチャレンジ精神等も育成する。また、人に教えたり、教えられたりしながら、自分の考えを言語化したり、他者の考えを聞き取ることができるようにすることで理解力等を育成し、B層からA層、A層の確実性を向上させる。